

## Netflixの映画産業への挑戦

米国に居を構え、米国のデジタル放送とインターネットTVの動向をウォッチし続けているテッド若山氏。今月のテーマは「Netflixの映画産業への挑戦」である。

テッド若山氏は、米国の調査会社ストラテジック社の調査担当副社長を経て、1987年にNSI Research社を設立。情報・通信・放送技術分野のマーケット調査とコンサルティング・サービスを提供している。さらに、マンスリーレポート「The Compass」を出版。サンプル購読希望者はcompass@nsirinc.comまで。

### テレビ番組制作を始めたNetflix

Netflixのオリジナル番組制作は、テレビ業界に大きな影響を及ぼしている。Netflixのストリーミングサービスは映画の配信で始まったが、映画の入手は困難であり、代わりにテレビ番組に目をつけた。テレビネットワークにとり、これは番組を再利用する新たな方法であり、最初はNetflixを歓迎した。そして、Netflix利用者が視聴するコンテンツの過半数はテレビ番組になっていった。

しかし、自ら番組制作を始めたことで、Netflixはテレビネットワークの競合になった。2013年2月に配信を開始した『House of Cards』をスタートに、Netflixは話題作を作り続けている。この成功により、テレビネットワーク、特に有料チャンネルはNetflixを警戒し始め、一部はNetflixとの契約を見直している。有料チャンネルで最大の加入者数を持つHBOは、最初は多チャンネルサービス上のサービスであり、Netflixとは異なる事業であることを強調していた。HBOは、オーバー・ザ・トップで配信することはあり得ないと言っていたが、最近、HBOはComcastと契約し、ケーブルTVサービスに加入していなくても、ComcastのブロードバンドサービスからHBOにアクセスできるようにしている。

多チャンネル事業者は最初、Netflixを配信事業者として警戒していたが、進む方向が多チャンネルサービスの競合ではなく、コンテンツの提供になっていくことで考えが変

わっている。NetflixのサービスをケーブルTV事業者が再販する動きが出ており、すでにイギリスのVirgin MediaとスウェーデンのCom Hemは、TiVoのSTBを導入している加入者に対してNetflixの提供を開始した。アメリカでも、Suddenlink、RCNなどの中小企業者だけでなく、Comcast、Time Warner CableなどもNetflixとの協力を検討している。Netflixの進む方向がHBOなどの有料チャンネルと同じであれば、争う必要はなく、契約をすることで売上のシェアを得ることができる。

### 映画配信権獲得に動くNetflix

Netflixのオリジナルコンテンツ制作の影響は、映画配給会社、映画館にも及ぼうとしている。NetflixのCEO、テッド・サランドス氏はFilm Independent Forumにおいて、Netflixが映画制作に投資をし、映画の封切りと同時にNetflixでも配信をする可能性を語った。Netflixは新しい映画の配信権を得ようとしているが、映画館からの反対で成功していない。映画館のオーナー会社は、観客動員数が減っているのは、映画館で封切られてからDVD、VODなどで配信されるまでの時間が短かすぎるからだと考えている。Netflixに新作を提供することはもちろん、VODの配信時期を早めることにも猛反対をしている。

サランドス氏は、映画館が進歩を拒んでおり、それが映画業界を衰退させていくと発言し、Netflixがオリジナル番組の制作をしているように、映画制作にも投資をし、封切りと同じ日にNetflixでも公開できるように検討していると語った。これを受け、映画館を代表するNational Association of Theater Ownersの会長は、サランドス氏の発言に対して「サブスクリプション型の映画サービスと低価格のレンタル事業がDVD業界を衰退させた。サランドスは、次は映画を殺そうとしている」と語っている。Netflixはオリジナルコンテンツへの投資をプログラミング予算の10%に増やし、来年は16のオリジナルコンテンツを制作する予定である。